

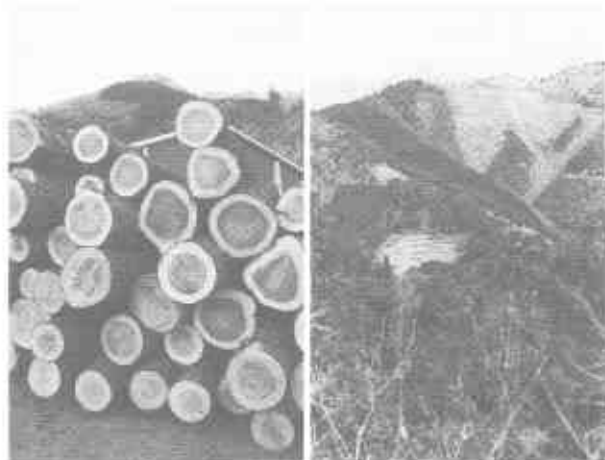
林産地からの発信

環境共生型

「宮崎」諸塚村方式産直住宅とは

文・矢房 孝広

川上と川下を結ぶ——。木の住宅に心を寄せるすべての人の願い。宮崎県
諸塚村では、産地、設計事務所、施工者が独立しつつ協力するスタイルの
産直住宅が展開されている。その他の事例も含め、九州の産直住宅は、今。



木の村、諸塚村。モザイク模様を織りなす理想的な林相

山村での思い

宮崎県諸塚村は、1000m級の急峻な山に囲まれ、林業とシイタケで生計を立てている村民2,500人弱の森深き山村である。

こんな山の中で不便なところでも、山村は意外と住みやすい。信号機もコンビニもスーパーもなく、生活の尺度を“モノ”で比べると当然都会に負けるが、お金を使わない、財布を持たない生活の気楽さは、田舎でないとなかなか味わえない。便利に暮らしたければ都会に出ればよい。山が好きならば、不便だが住みやすく快適な暮らしがここにはある。

しかし、悲しいことに山に定住し、山で生活する人は確実に減っている。思うに、都会で生きることは何となくできるけれど、自分の意志で山にしがみつき暮らすには、その決意がいるからではないか。後継ぎのいない村は急激に過疎化し、山守のない山は荒廃し、土砂崩れや水害、水質汚染などを引き起こす。

私個人は、大学と卒業後あわせて十数年都会で生活し、Uターンで戻ってきた者である。確かに情報も多く、プロジェクトも大きい都会の生活はおもしろかったし、その魅力は否定できない。

しかし、若者を中心に広がるどうしようもない行き詰まり感到に危機感を覚え、その突破口が自分の原点である山村にあるのではと、「どうなるかではなく、どうするかが大事だ」とたんかを切って戻ってきた。なんと言ってもここは一人の人間の重さが違う。いくら会社の中心で第一線にいても、数万人の集団である。人の意思が通じ、一つの組織として動ける千人単位のヒューマンなスケールが、これからの社会の核になると私は思う。

行き詰まりの使い捨て社会

戦後の日本は、人・物・資本を都市に集中させて、経済大国になってきた。都市の工業・サービス業に人口が極端に流れた結果、地方が過疎化し後継者のいない農山村の環境は荒廃している。もっと言えばわれわれの豊かな暮らしの大部分を支えているのは途上国からの資源の大量輸入品で、相手国の自然やコミュニティを破壊して手に入れたものであることを忘れてはいけない。

問題ははっきりしていて、均質のモノを年間通して大量に必要な生活に日本全体がはまってしまっているからである。機械製品はもちろん、実際、大地・自然の恵みで、味も色も決して均質でない野菜や木材までが、工場で生産されるように均質・大量・

諸塚村産直住宅供給原則〔基本原則〕

「住む人主役の家づくり」 製材・設計・施工の方針を住む人の立場で一貫させる

「参加型の家づくり」 施主に実際の家づくりに参加してもらう

「長寿の家」 耐久性、耐震性を備えた本来の住宅づくり

「木の家づくり」 木の素材の良さを追求する

「自然派住宅」 有害物質・人工素材を極力抑えた自然素材中心の家づくり

「環境共生住宅」 地球環境を配慮した家づくり

「ローテクの家づくり」 伝統技術を生かした家づくり

「葉付自然乾燥材の家」 葉付自然乾燥材（葉枯らし材）による木材

「適正なコスト」 規格材を使用し、適正な製材と乾燥コストで無駄を省く

「ガラス張りのコスト」 工事費の并勘定を排除し、見積もり内容を開示する

「バリアフリー住宅」 高齢化社会に配慮した一生住める家



写真上／人口2,500人。信号機のない村。
人々の営みと自然
写真右／クヌギ林を育て、シイタケをつくる。
原木（丸太）生産のシイタケが自慢

安定供給されるべき物質になっている。有限な石油資源で支えられた無限の使い捨て型生産体制と、農林業者や消費者にはわからない流通体制が支配しているのが今の日本である。

農村が、都市のデパートや商社と取引するには、四季を無視して一年中大量に商品が必要である。ハウス栽培で石油資源を大量に使ったり、農薬漬けの形のそろった農産物の商品価値が高くなる仕組みとなる。途上国の生態系を破壊し大量生産される農産物と、原生林を無造作に大量伐採して得られる木材の輸入に頼った結果、食料自給率42%、木材自給率20%の史上例のない危機的な社会が生まれている。

国産木材の危機と家づくりの迷走

今、生活を支える素材丸太の市場価格は大きく値崩れし、山村の林業に展望を持つことは難しくなっている。「国産材は高く、輸入材は安い」という方便で、輸入材が多く使われているが、輸入材がむしろ値上がりしているのは事実である。木材製品価格が下がらない中で原木価格の暴落を「景気が悪いし、住宅が建たないから」と言い訳しているが、本当の理由は目の前にできている住宅が輸入材でつくられているからではないか。木材市場は、生産者と建築主（消費者）を無視して動いている。

一方の都市では、シックハウスなどの室内汚染問題が急激に広がり、家づくりは混乱している。建築主は、便利さ、快適さ、経済性を追求し、家電製品を買うように“家を買う”ことで“家づくり”を忘れているようだ。また、建築工事業者はクレームをおそれて、安易な新建材ばかり使い、地元の風土にあった本当の“家づくり”を放棄している。建築主が決められるのは間取りや



写真上／この木が私たちの家に。
生産現場で木材に触れる喜び
写真右／木が川下に運ばれていく様子を見る



エコビレッジ諸塚プロジェクト事業とは

諸塚村と諸塚村森林組合、森林作業の第三セクター・ウッドピア諸塚の共同プロジェクト。1996年度から本格的にスタート。木材をはじめとする森林資源の有効活用と都市と山村との独自の交流を促進することで、山村の人々が自信を持って生活していく基盤をつくるのが目的。自然素材を使った本来の家づくりの提案や山村文化の再評価を通して、単なる素材の直売ではなく、人にも、地球にも優しい生活提案型の展開（エコビレッジ諸塚プロジェクト）をはかる。

【主な活動】

①産直住宅関連

1997年度から実際に産直住宅を供給開始。増改築含めて、熊本、福岡、宮崎を中心に1997年度に2棟、1998年度に7棟が完成。1999年度は10棟が目標。九州地区限定の地域性のある家づくりをめざす。

②モデルハウス関連

「諸塚村産直住宅モデルハウス」：山村から発信する環境共生型自然派住宅。シックハウスなどの住まいの環境汚染が叫ばれる中で、地元木材を中心に“ほんもの”の自然素材をふんだんに使った本来の家づくりを提案。

③セミナー関連

●「森林と住まいのセミナー」：福岡、熊本、宮崎で4回実施。参加者延べ210人。都市と山村との交流事業。これからの家づくりと環境保全をメインテーマとし、恵まれた自然を生かした諸塚村の村づくりを通して、山村から都市に発信する。●「森の国のオータムセミナー」：産直住宅の建築主を諸塚に招待し、地元の林業従事者との交流を行なう。

※「21世紀暮らし展'98(熊本)」 「住まいと環境を考える会セミナー(福岡)」へ参加

④ツアー関連

「木材産地ツアー」：福岡、熊本、宮崎の都市市民に呼びかけ、山村行事への参加を募る。都市と山村との交流事業。年3回実施。夜神楽、文化祭、地元の祭りなどに参加。これまで6回実施し、遠くは北九州、佐賀からもふくめ、延べ約220人が来村。

⑤体験交流事業

●「そばまき体験ツアー」：主に宮崎の都市市民に呼びかけ、そばの種まきから、花見、収穫、そば打ちまでの4回の体験シリーズ。1998年秋に実施。20人参加。●「杉皮葺き体験講座」：標高700mを越える山間の古い民家を改修してつくる都市と山村との農林業体験型交流施設に、古くから行なわれていた屋根の杉の皮葺きを復活させ、貴重なその作業を公開した。1998年12月に実施。20人参加。●「古民家お宝探偵団」：同施設の江戸時代に建てられた馬屋にある未整理民具の調査作業を公開して行なう。火縄銃あり、古馬具ありの楽しい作業。1999年3月7日実施。

問合せ先

諸塚村役場諸塚村産直住宅プロジェクトチーム
宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代2683 〒833-1301
TEL 0982-65-1111 FAX 0982-65-1236

私の国産材活用法+林産地に望むこと

木を使うことは、地上に生きる者の義務だと思う

古川 保さん（すまい塾古川設計室／熊本）

60年生くらいまでの若い木のほうがたくさん二酸化炭素を吸収するんですよ。私は熊本に住んでいるから、小国や阿蘇の木が出した酸素を吸っている。だから、近くの木を使うのは、あたりまえ。具体的には、小国の製材所から直接買っている。長年かかってつくったルート。オーダーを出して、2カ月乾燥させてもらい、墨付けに1カ月、きざみに1カ月、プレカット禁止で手削みになっているから乾燥期間がとれる。林産地に望むものは、川上と川下をつなげる人が欲しい。組織がありすぎて、山にまつわる芸職家族が多すぎるのではないかと、産直野菜のように「私がつくりました」という木が欲しい。山にネクタイ族は、いない。

木材そのものをかわいがってほしい

佐藤千恵さん（開設設計事務所／福岡）

杉や檜は、外材では代えられない。私は杉の産地。人に対する優しさが好き。だから当然のように国産材を使っている。木を使うには、木の性質、性格を見抜いた上でセレクトが必要。おおよその予算でどんな木を使うか決めていく。坪50万円なら節があったり原平（赤身と白身に分かれているもの）になるが、デザイン上固めることはない。林業の最大の問題は、木をかわいがっている人が少なくなったことではないかと。木材価格が安いとか、後継者がいないとか言うが、愛情をかけて自信の持てるいい材料をつくってほしい。そうでないと、いつまでも悪循環だと思う。



葉枯らしの様子。山床で3カ月、製材してから4カ月乾燥する



諸塚村では内装材もつくっている



皮をむかれて製材される丸太



川上と川下の人々のふれあいが何より大切。そば巻き体験ツアーにて

クロス、柄、便器の色で、本当に大切な部分＝素材の選択や木材選びはブラックボックス化している。

われわれの挑戦

山村の現状は想像以上に厳しいが、山の恵みを受け林業に生きるもの、川上に住むものとして私たちは、林業の活性化を義務ととらえる。災害防止や木の保全、CO₂固定と、森林は、多岐にわたって国土を保全し地球を守っているが、全国で山林の管理不足が原因と思われる土砂災害や水不足などのさまざまな問題が起こっている。山に感謝し自然を尊重しながら、安心して山で生きていける森林理想郷をつくれれば、自分たちの生活も守り、川下の人たちの命も守ることができる。

その一つの提案が「エコビレッジ諸塚プロジェクト」である。山村経済は、利益追求が第一ではなく、環境と共生しつつ、安心して暮らせる社会構築が目的であることを確認するものである。村役場、森林組合等の若手を中心に勉強会（「エコビレッジ諸塚プロジェクト」）を組織し、いろいろな活動の局面でその精神を生かした生活提案型の運営を行なおうとしている。しかも、今までと違ったことをするのではなく、先人が積み重ねてきた「自分のことだけでなくお互いのことを、現在のことだけでなく子や孫の代のことを」と考えた生き方を受け継ぎ、その賛同者をできる

だけ増やすことにある。たとえば、その一つに「諸塚方式」自治公民館制度がある。諸塚村では、公民館はサロンでもサークル活動の場でもなく、村おこしの拠点である。諸塚村には88の集落があるが、16の公民館を中心に住民は自治活動を行ない、村の施策に反映させている。1公民館は15戸から100戸の単位であり、住民総参加で森林維持管理を行なっている。また、諸塚村には針葉樹とシタケ原木の落葉広葉樹の「針広混植」の理想的な林相が実現している。針葉樹と広葉樹をバランスよく植林しているため、木質・木量を守り、四季に応じモザイク模様を織りなす、全国でもめずらしい林相を生かした森なのである。何世代もかけて丹精込めて育てた山を、売れないからというだけで捨てることはできない。「山の神に感謝し、山があるからがんばれる」という気持ちがある限り、諸塚には管理不足で荒れた山は生まれまいだろう。

「エコビレッジ諸塚プロジェクト」の拡大

今の社会を、今さら昔ながらの完全な自給自足経済に戻すのは当然無理だ。しかし、便利・美味しい・美しいものが一番という固定観念を捨てて、できるだけ身近にある自然な物で生活することが現代の自給自足ではないかと思う。これが、エコビレッジ諸塚プロジェクトの基本理念である。自然を保護しながら、その恵みを生かして生活する森林理想郷。それを実現するには、大量生産、大量消費の経済システムに支配された流通ではなく、「川上」と「川下」とに物・人・情報の直接循環を回復させることである。それをきっかけに都市と山がバランスを取り戻し、流通の中にお互いの顔が見えるシステム、ホンモノの商品価値が高いシステムをつくれる。

そもそも、家づくりはその地域の気候や風土にあわせ、各地に独自の文化としてはぐくまれたものである。九州で家をつくる

私の国産材活用法+林産地に望むこと

分厚い杉の床材をつくってください

柴田 勝さん（デザインルーム琢磨／福岡）

昭和40年代までは国産材が使えた。ところが、このごろは、どうしてもコストが合わず、外材ばかり。かつては根太も台敷といって角の丸いものを使い、その方が丈夫だった。一つ提案したいのは、設計者と相談して、切れ端の出ないような木の伐り出し方から考えてはどうか。もうひとつは、足場板のような1寸くらいの厚みの床材が欲しい。柔らかい反面、杉は樟のような冷たさがない。杉の厚材をぜひ使ってみたい。ただし、乾燥はよくすること。

図面に明記し、木材リストをつくることから始めている

土公純一さん（土公建築・環境設計室／福岡）

「木工事特記仕様書」を別につくり、含水率10%以下、製材後40日以上乾燥させることと明記している。また耐腐、寸法、継ぎ手、仕口など30カ所6項目にわたって「木材リスト」をつくっている。林産地に望むことは、とにかく乾燥材の確保につとめてほしい。



製材されてさらに天然乾燥。この日、ちょうど見学会に訪れていた建築主が自分の住宅に運ばれていく木材と感動の対面

私の国産材活用法+林産地に望むこと

産地、工務店、設計者の協力関係なければ

永田龍和さん（永田建築事務所/福岡）

川上の人たちとネットワークをつくりたい、と小国の森林組合などに呼びかけ、木造建築研究会（事務局は当事務所）をつくった。しかしながら、まだ産地までは指定しづらい、というのは、木は生きており、責任の所在を明らかにするため、工務店は、つきあひのあるところと取り引きをしたがる。主要な部分については、材木店まで見に行くようにはしているが、大工さんを見て、工務店に理解してもらうのがポイントでは。林産地に望むのは、建材という意味とは相反するが、樹木に親しんでほしい。

「乾燥」がポイント。共同で乾燥窯を導入しては

首藤泰比古さん（アトリエ古松堂/福岡）

杉は、わが国独特の木材。だから、杉を使えば当然国産材である。基本的に構造材はあらわしにしているが、きりがいいし、強度は変わらないので、一等無節でなく、一等上小節くらいにしている。仕様書に10~10%に乾燥と明示しているが、なかなかそうになっていない。すいてくるのがいちばん困る。杉の場合、山が近いから、伐ってすぐ丸太を製材し、それを使用しているのではない。天然乾燥がいちばん良いが、それができないのなら、森林組合などが共同の乾燥窯で乾燥させてはどうか。等級だけでなく、乾燥の品質にもグレードづけを行なうべきだ。

ときには、九州の山の木を使って、そこで暮らす地元の大工さんの手でつくる。それはごく自然で、輸送や伐採の無駄なエネルギーも使わない環境共生住宅になる。この家づくりの原点に戻るには、建築主も設計事務所も工務店も大きな発想の転換が必要で、時代に逆行するような動きを、本気でしなければならない。その回答の一つが、川上（木材産地）と川下（住宅地）のネットワークによる諸塚村産直住宅である。

九州の家＝諸塚村産直住宅

エコビレッジ諸塚プロジェクトは、諸塚村、諸塚村森林組合、森林作業を行なう第三セクター「ウッドピア諸塚」、合わせて三者の共同事業である。われわれ「エコビレッジ諸塚プロジェクト」の産直住宅は、九州地域限定の自然派の家づくりをめざす。無駄なエネルギーを使わない節約型で地球にも人にも優しい九州の家づくりを目標としている。大規模なことや、大量供給はできないが、材の生産者と家の建築主がお互い見える体制をつくることで、生産者は市場価格だけで一喜一憂するのではなく、家づくりの現場の意見を聞き、どういう材がどういう値段で必要なかわかる。需要にあった物を適正な価格で生産する生産者の原点に戻る。当然建築主には自分の家にあった環境にも人にも優しい優良な素材が確実に手に入る大きなメリットがある。

具体的には1997年から始まり、現在9棟が実現している。いずれも都市の設計事務所、工務店とのネットワークによって実現したもので、私たちの努力というより都市の賛同者の強力な支援で実現したものばかりである。

「市場よりどれくらい安い」という問い合わせがときどきあるが、材の規格や数量、種類によって違うし、市場価格は私た

九州・山口の産直住宅を巡る

1 津江杉の家

日田杉として知られる大分県日田郡上津江村の杉を使用。福岡市近郊の須恵町にモデルハウスがあり、百田工務店の設計・施工で建設する。OMソーラーシステムも導入できる。



●事業主体/百田工務店 ●販売対象エリア/福岡都市圏・近郊・大分県北部
●木材の入手先/大分県上津江村 ●実績/約20棟 ●設計/百田工務店 ●施工/百田工務店 ●価格の目安/40坪の住宅で1,800万円～2,300万円 ●連絡先/百田工務店（福岡県粕屋郡粕屋町大字中原ミヨリ2836 TEL 092-611-3538 FAX 092-629-4832 〒811-2304） ●モデルハウス/上津江村との共同事業（福岡県粕屋郡粕屋町大字須恵484-9 TEL 092-933-8345 〒811-2113）

2 フォルクスハウスC「木の家」

システム（構法）構築は三澤康彦&三澤文子（Ms建築設計事務所）。独自の規準で上津江村の杉を乾燥、製材。販売圏は主に福岡県を対象。設計と施工は安成工務店が行なう。



●事業主体/安成工務店 ●販売対象エリア/福岡・北九州・山口 ●木材の入手先/大分県上津江村 ●実績/十数件 ●システム構築/三澤康彦&三澤文子（Ms建築設計事務所） ●設計/安成工務店 ●施工/安成工務店 ●価格の目安/40坪の住宅で2,000万円～3,000万円 ●連絡先/安成工務店北九州支店（北九州市小倉南区田原新町2-4-1 TEL 093-475-2323 FAX 093-475-2335 〒800-0226） ●モデルハウス/木の家づくり展示館（北九州市小倉南区田原新町2-382-4 TEL 093-475-2323）

3 防長杉の家

山口県の萩流域、豊田流域、錦川流域の杉を「防長杉」と名づけて使用。断熱材には天然の木質繊維（セルロースファイバー）を使用。設計・施工は安成工務店が行なう。山口県下を主な販売対象圏としている。



●事業主体/安成工務店 ●販売対象エリア/山口・北九州・福岡 ●木材の入手先/山口県萩流域、豊田流域、錦川流域 ●実績/数件 ●設計/安成工務店 ●施工/安成工務店 ●価格の目安/40坪の住宅で2,000万円～3,000万円 ●連絡先/安成工務店（下関市綾羅木新町3-7-1 TEL 0832-52-2419 FAX 0832-52-2720 〒751-0865） ●モデルハウス/小郡（山口県吉敷郡小郡町黄金町13-33 TEL 0839-74-5700）・周南（山口県下松市大字末武下343-8 読売新聞住宅展示場ハウジングメッセ周南内 TEL 0833-44-5020）

4 九州木の家づくり協同組合

1997年4月結成。福岡、山口、北九州、長崎、大分、別府の工務店8社が大分県上津江村の第三セクター（関トラウッド）と連携をとって木材の供給を受け、木造住宅を建設している。各地域において8社それぞれが設計と施工を行なっている。



●構成員/百田工務店（福岡）・福岡中小建設業協同組合（福岡）・サン建築工房（北九州）・輝星建設（長崎）・サンライフ（熊本）・吉野工業（別府）・高木建設（大分）・安成工務店（山口） ●販売対象エリア/上記の各地域 ●実績/約120件 ●価格の目安/40坪の住宅で坪50万円～80万円 ●理事長/安成信次 ●事務局/安成工務店北九州支店（北九州市小倉南区田原新町2-4-1 TEL 093-475-2323 FAX 093-475-2335 〒800-0226）

■農林業体験型交流施設「やましぎの杜」(第130年の民家再生)



竣工 1999年3月
所在地 宮崎県東臼杵郡諸
塚村大字七ツ山字上合鳴
用途 宿泊研修施設2棟
建築主 諸塚村
改修設計 柴設計
改修工事 協栄
延床面積 旧杉本家:161.66㎡
旧甲斐家:141.38㎡
総工事費 23,992,500円

民家を再生し、農林業体験型交流施設に。昔ながらの屋根の杉皮葺き作業を復活、体験

ちではわからなくなっているので何とも言えない。市場より安いという人もいれば、高いという人もいる。しかし、アトピーに悩む建築主が「木材を使うと高くなるから」と断られた話や、健康仕様の木の住宅をつくらうとしたが、市場たたき売りの安い木材(加工処理の段階で汚染されていた)を使われてシックハウスになってしまった悲しい事例を聞くと、生産地の見えない木材ほど怖いものはないと思う。今まで「産直が安いから」だけで飛びついたお客さんはいないし、私たちも安いだけで希望される方にはあまり勧めていない。金以上に熱意がいるのだ。

まず建築主には必ず諸塚に来村していただき、山と村人を知ってもらう。生産者が「父親に怒られながら植えて育てた木」でできた建築主の「思いのこもった家」で、涙に目をうるませながら話す両人の会話は感動ものであり、「気持ちいい空間なので来客が必ず昼寝をする」という建築主に「今からがんばって手入れして、もっといい材をつくる」と答える生産者も頼もしい。また、製材現場で自宅用の木材を見て、まるで息子の嫁を迎えるように喜ぶ建築主もいる。金では買えないものがたりが生まれる。

また、信頼できて理解の深い設計事務所や工務店とできるだけ緻密な連携をとることにしている。しかし、まだまだ試行錯誤中で、かなり手間がかかるので相手先に迷惑な部分も多いと思う。諸塚村産直住宅は木材の産直だけで請負体制ではない。何より家はその地域のことに理解の深い方、技術者に任せるべきという考え方である。そして、私たちは単に木材の産直をするだけでなく、「住む人が主役で、家をつくる現場に建築主が参加」し、「製材・

設計・施工の方針を住む人の立場で貫き通そう」としている。

次に、素材は基本的には葉枯らし木材による規格材を推奨している。私たちの葉枯らし木材は山床で3カ月、製材して4カ月を標準としているため、計画的な生産が必要で、今のところ限定販売の形になっている。平成10年度の4棟分は完売し、11年度は10棟分の予定である。現段階では肝心のスケジュールが読みにくいので、「家づくり塾」の形態で建築主と話し合いの場を持ち、事前に製品の予約ができるシステムの導入を検討中である。他に薫煙乾燥床材や壁材、天井材などの内装規格部品もいくつか準備している。

理想の家づくりをめざして

諸塚村産直住宅は都市と山村のネットワークをコーディネートしてつくり上げるシステムである。逆に言うと、こうしないといけないという決まったマニュアルはない。都市側の要望にあわせてできる限り努力して1棟でも多く実現していこうと思っている。個人個人で考えてはいるが、いろいろな障害であきらめかけている「理想の家づくり」を、やればできるんだという思いで実現させる手助けをしたい。

このプロジェクトの推進で山が元気を取り戻し、川下の人たちの精神に少しでも潤いをもたらす、生産と消費の魅力ある結合ができるのではと本気で思っている。難しい問題も多いが、川下と川上がネットワークの中でお互い交流し、試行錯誤しながら実績を積み重ねていくことが大切だと考える。

■諸塚村産直住宅モデルハウス



竣工 1998年12月
所在地 宮崎県東臼杵郡諸塚村大字家代字赤石
建築主 諸塚村 改修設計 柴設計
改修工事 住建 延床面積 129.41㎡
総工事費 19,914,000円(外構工事を除く)

諸塚村方式産直住宅事例集



1 S邸

竣工 1997年10月10日
所在地 熊本市
種別 増築
用途 自宅兼店舗
設計 白木力建築設計室
施工 三友工務店
延床面積 146㎡
工事費 2,137万円



4 S邸

竣工 1998年10月24日
所在地 熊本市
種別 改装(内装のみ)
用途 子供部屋
設計 へん設計
施工 三友工務店
延床面積 52㎡



2 M邸

竣工 1998年5月10日
所在地 熊本県阿蘇町
種別 新築
用途 自宅
設計 白木力建築設計室
施工 小椋住宅
延床面積 136㎡
工事費 2,278万円



竣工 1998年12月13日
所在地 宮崎県都城市
種別 新築
用途 貸家
設計 柴設計
施工 桜木組
延床面積 225㎡

6 T邸

竣工 1998年10月30日
所在地 福岡県小都市
種別 改装(内装のみ)
用途 自宅
設計 MIKI PLAN
施工 直営
延床面積 20㎡

3 H邸

竣工 1998年10月24日
所在地 熊本市
種別 新築
用途 自宅
設計 白木力建築設計室
施工 富坂建設
延床面積 138㎡



7 K邸

竣工 1998年11月
所在地 宮崎県国富町
種別 新築(内装のみ)
用途 自宅
施工 内山建設
延床面積 120㎡

8 M邸

竣工 1999年4月(予定)
所在地 宮崎県綾町
種別 新築
用途 自宅
設計 しんみ設計室
施工 西尾組
延床面積 150㎡

9 H邸

竣工 1999年5月(予定)
所在地 熊本県松橋町
種別 新築
用途 自宅
設計 白木力建築設計室
施工 環境リフォーム
研究所
延床面積 225㎡

やぶさ たかひろ
矢房 孝広

1962年宮崎県諸塚村生まれ。大学卒業後10年間設計事務所
所に勤務し、東京・大阪に在住。1995年Uターンで諸塚
村役場に入庁(建設課建築係に所属)し、現在に至る。

